

【様式1-1】

嘉麻市 橋梁長寿命化修繕計画

平成26年3月

嘉 麻 市

1. 橋梁長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

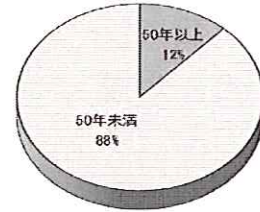
本市の管理橋梁（ボックスカルバート、コルゲート管および木橋以外）は、平成25年4月1日現在で306橋である。

このうち、架設年次が分かっている橋梁は101橋で、建設後50年を経過している橋梁は約12%

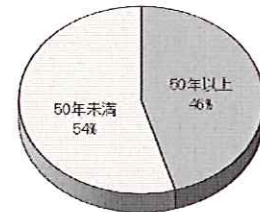
（12橋）を占めている。20年後（平成45年度）には約46%（46橋）、30年後（平成55年度）には約83%（84橋）となり、増加していく。

このように今後急速に高齢化が進む橋梁に対して、従来の事後保全型の維持管理（損傷がある程度進行して対策する）では維持管理コストが膨大となり、限られた予算制約の中で、安全性や信頼性を確保することが困難となる。

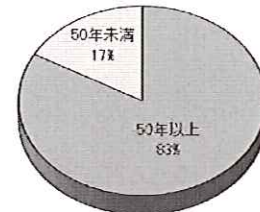
平成25年度
12橋
(12%)



平成45年度
46橋
(46%)



平成55年度
84橋
(83%)



2) 目的

今後、橋梁の急速な高齢化に対応するため、従来の事後保全型の維持管理による補修や架替えから、損傷が少ないうちに対策する予防的な補修や計画に基づいた架替えに政策を転換し、補修等の費用削減および架替えに係る費用の平準化を図り、地域道路網の安全性や信頼性を確保することを目的とする。

2. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1級市道	2級市道	その他市道	合計
全管理橋梁数	59	54	265	378
うち計画の対象橋梁数	46	48	212	306
うち平成24年度計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち平成25年度計画策定橋梁数	46	48	212	306

橋梁長寿命化修繕計画の対象：

平成25年度、本市の橋梁長寿命化修繕計画は、管理している全378橋のうち、ボックスカルバート、コルゲート管および木橋以外の306橋とする。なお、ボックスカルバート、コルゲート管および木橋は、橋の規模が小さいことから、従来の事後保全型による維持管理とする。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

橋を効率的に維持管理するには、橋に発生している損傷を早期に把握するための点検を行うことが重要である。

そのため、本市では、点検方法を各段階に応じて次のように区分する。

種類	目的	頻度
日常点検	道路パトロールでの状況把握	随時
定期点検	橋の状況把握	5年に1度
定期点検(点検強化)	損傷の進行状況把握	3年に1度
詳細調査	損傷の詳細点検	必要に応じて
緊急点検	異常な損傷の把握	災害時など 必要に応じて

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋の長寿命化には、日常点検（道路パトロール）および定期点検で見えされる損傷の対策が大きく影響を及ぼすと考えられる。

そのため、本市では、比較的容易に対応が可能なものは、日常の維持作業で措置するものとする。なお、定期点検で損傷が著しい橋については、日常点検にフィードバックし、点検内容を強化するものとします。

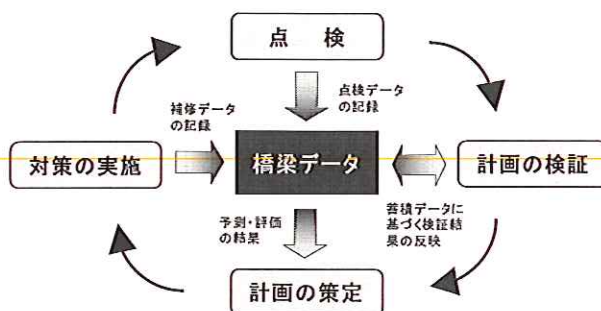
4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

本市では、橋梁長寿命化修繕計画による効果を継続的に発揮するため、以下の方針を設定する。

- (1) 点検の実施
- (2) 橋梁維持管理サイクルの運用

橋梁維持管理サイクルを運用することにより、定期点検や日常的な点検で橋の健全度を把握し、予防的な補修や計画に基づいた架替えにより、維持管理費の軽減を目指す。

また、実施した補修の効果や点検結果を踏まえ、橋梁長寿命化修繕計画の検証を行い、効果的な計画となるように適宜見直しを行う。

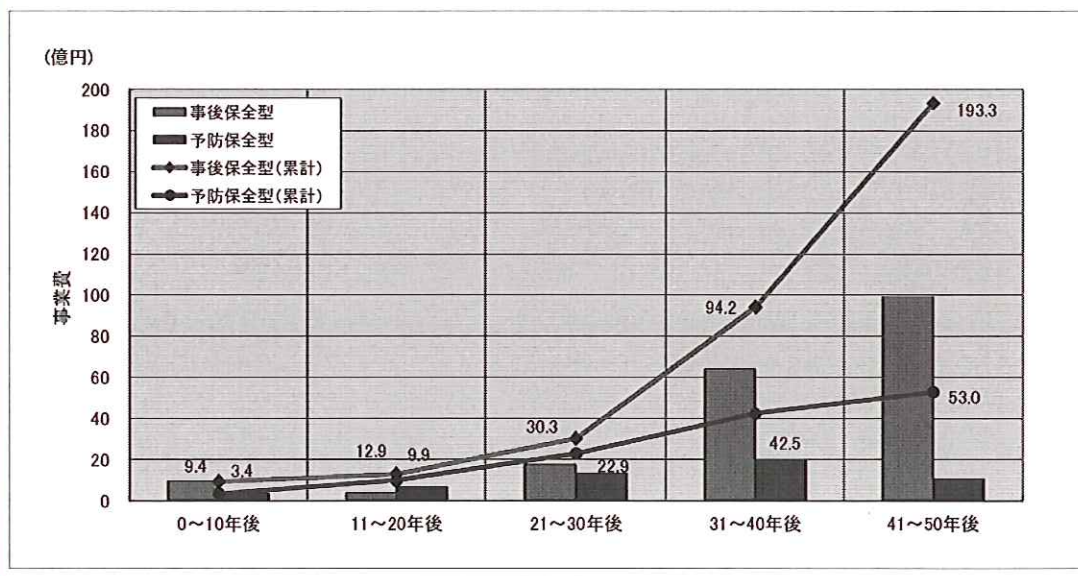


5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

様式1-2による

6. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

橋梁長寿命化修繕計画を策定する306橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が193.3億円に対し、橋梁長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が53.0億円となり、コスト削減効果は140.3億円となる。また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

嘉麻市役所 土木課 土木係 TEL : 0948-62-5353 (代表)

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

福岡大学 工学部 社会デザイン工学科准教授 坂田 力